

スペイン農業省畜産局長パレス・キンティアーノ・ボニージャ氏と高嶋康豪博士との会談議事

(概要)

1. 日時：平成12年(2000年)10月2日(月) 13:00-15:30
2. 場所：スペイン農業省畜産局長室内 (JOSE ABASCAL, 4 28071 MADRID)
3. 出席者：7名

(スペイン側)

キンティアーノ・パレス・ボニージャ 氏 (スペイン農業省畜産局長)
マヌエル・ビヘリエゴ 氏 (スペイン農業省畜産局次長)
フェデリコ・コロンチャ・ベガ 氏 (パレス氏コミッシヨナール)
マリ・カルメン・ゴンゴイチヤ 氏 (同上)

(日本側)

高嶋 康豪 (高嶋開発工学総合研究所長、環境微生物学博士、Fellow)
岡崎 伸太郎 (通訳)
他1名

4. 議事概要：

【パレス氏と高嶋博士との約束事の確認】

- 5年前に約束した、スペイン国内及びヨーロッパ全体が抱える畜産廃液問題について、高嶋康豪博士の科学技術を用いて解決し、畜産業界の活性化を図ること。
さらに、スペインはヨーロッパとアフリカを結ぶ接点となり、究極はアフリカ戦略を行い、農業の持続的発展による食料問題の解消、砂漠の緑化を行うことが要であること (双方の意思の確認)。

【今後の展開における課題】

- スペインでは、新たな科学技術を国策として認定、導入するためには、最近新設された科学技術省の科学的検証が必要となる。ついては、3日にその担当者である、科学技術省技術調査部次長のバルベル氏を招いて、再度その場で話し合いをしたい (パレス局長談)。
- そうしたチェックを国が行うことは当然のこと。本科学技術のプレゼンテーションをその場でいい、ご質問があればお答えしよう (高嶋博士談)。

スペイン農業省畜産局長パルス・キンティアノ・ボニージャ氏、科学技術省技術調査部次長
ハビエル・パテオス・ゴメス氏と高嶋康豪博士との会談議事

(概要)

1. 日時：平成12年(2000年)10月3日(火) 17:00—19:30
2. 場所：スペイン農業省畜産局長会議室 (JOSE ABASCAL, 4 28071 MADRID)

3. 出席者：10名

(スペイン側)

キンティアノ・パルス・ボニージャ 氏 (スペイン農業省畜産局長)
ハビエル・パテオス・ゴメス 氏 (スペイン科学技術省技術調査部次長)
カロス・カバナス 氏 (スペイン科学技術省畜産飼料部次長)
他、科学技術省研究技術員 (ドクトル) 大学博士) 2名
フェデリコ・ゴイエチャ・ベガ 氏 (パリス氏コミッション)
マリ・カルメン・ゴイエチャ 氏 (同上)

(日本側)

高嶋 康豪 (高嶋開発工学総合研究所所長、環境微生物学博士、Fellow)
沢田さち子 (通訳)
他1名

4. 議事概要：

(高嶋博士より科学技術省行政官に対して、資料を用いて本科学技術のプレゼンテーション)

● 学術的に説明すれば、単なる水処理技術やバイオテクノロジーではない。本科学技術の説明するため、素粒子物理・分子生物学・情報生命工学・情報微生物工学の分野から分析・解析を行ったものである。5年前にパリス局長と約束した、スペイン国内及びヨーロッパ全体が抱える畜産廃液等環境の諸問題について、この科学技術を用いて解決し、究極はアフリカ砂漠の緑化を行うということを果たすことが私の務めであり、決して売り込みやプロパガンダをすつものりはない(高嶋博士談)。

(その後、高嶋博士と研究技術員の間で学術的・専門的質疑応答)

(結論)

- すばらしい科学技術であり、これを応用することにより我が国の国益となるのであれば大変うれしいことである。とにかく、本日もいただいた資料を解読し、その後、年内中に日本へ公式訪問し実施先を視察させていただき、事実を確認した上でスペイン国内で実施するための段取りを行うことを約束する(ハビエル氏談)。
- 日本への視察は農業省と科学技術省の関係者が一緒に行くことにしよう。当然私も行くことになる(パリス氏談)。



スペイン農業省畜産庁ペレス長官と高嶋博士との会談
(2000年10月2日・3日、スペイン農業省畜産庁長官室にて)



ペレス長官より高嶋博士へ記念品贈呈
(左は、スペイン科学技術省ハビエル次官)



スペイン国益のため(ペレス長官)、人類地球救済のため(高嶋博士)、
堅い約束を誓い合う